

存在するので、いかにして妨害因子を除去するのが工夫する必要がある。さらに染色液の最適濃度や歯根破折の確定診断をするためにはD値がどの程度なのか検討をしなければならない。また、臨床応用する前にはメチレンブルーとエタノールの口腔内組織に及ぼす影響や染色液の特異性についてさらに検討する必要があると考えられる。本研究の結果から、染色液としてメチレンブルーを使用することでDIAGNOdent[®]が歯根破折の診断に応用できる可能性があることが示唆された。そしてメチレンブルー染色液にエタノールを20%または40%含有させることによってエタノールを含有していない染色液と比較してD値が有意に増加したことから特異性が高まることが示唆された。

19) 奥羽大学学園祭において学生が主体として行ったBLS体験コーナーの概要

○青沼 哲, 吉田 健司, 渡邊 崇, 鈴木 悠介
宮腰 義隆, 神庭 一郎, 伊藤 隼, 稲垣友理奈
菅原 繁, 伊東勇一郎¹, 田中 恵梨²
(奥羽大・歯・5学年, 4学年¹, 2学年²)

【目的】近年、一次救命処置（以下BLS）／二次救命処置（以下ACLS）に代表される救急救命手順の講習が全国的に浸透しているが、緊急時の初期対応の修得については、医療従事者のみならず、一般市民にとっても重要と考えられる。今回、第5学年の臨床実習におけるBLS講習をきっかけに、救命処置に興味を持つ学生が主体となり、学園祭来場者を対象にBLSに関する啓発活動を行ったので、その概要を報告する。

【対象および方法】奥羽大学学園祭の来場者を対象に、アメリカ心臓協会のBLSヘルスケアプロバイダーを取得した11名の学生が主体となり、救命処置法の概要、重要性を解説した。さらに展示物を配置し、BLSの体験コーナーを設けた。来場者には蘇生に関する用語の認知度と救命処置に関する意識調査を行った。

【結果】1. 全来場者数は123名（1時間当たり20名）であり、聞き取り調査の回答者は93名であった。2. 蘇生用語の認知度として、BLSは37%、CPRは27%、ACLSは17%であった。AEDは62%であり、他の用語に比較して認知度が高

かった。3. 緊急時の対応については、90%の人が「助けたい」と解答した。4. BLS体験後は、わかりやすくBLSやAEDを体験できたことで、救命に関する意識の向上と、われわれ学生の活動を評価する意見が寄せられた。

【考察】人が目の前で倒れるという緊急事態に遭遇した際、冷静に対処するためには、事前に知識や技術の習得が必要である。臨床実習よりBLSの重要性・必要性を学び、そして、知識・技術を向上させるためにBLSヘルスケアプロバイダーを取得することは、冷静に対処する上で有意義であると考えられる。

【結論】今回の学園祭での来場人数は、われわれ予想をはるかに超えるものであり、一般の方々へのBLSへの興味は高いと考えられ、われわれも教えることの喜びを学ぶことができた。また、今後も続けてほしいという意見が多くあったことから、このような活動を継続して行くことに意義があると思われた。